

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 5 回 CCC 芸術系グループ運営委員会議事録

- I. 日 時： 平成 21 年 10 月 3 日（土）午後 1～3 時
- II. 場 所： 私学会館会議室「高尾」
- III. 出席者： 井澤委員、有馬委員、西垣委員、久原委員（記録）、小川委員（ネット参加）
事務局： 井端事務局長、森下主幹、山野上係長

IV. 検討事項：

1. 芸術系教育における到達度の測定方法について

まず、前回の作成した到達度を改めて見直したところ、芸術学などの研究・理論系のコアカリを補足する必要があるとの意見が挙がり、到達目標「3.」のコアカリに研究論文を追加することとなった。次に、到達度の測定方法について、委員提案の資料を参考に検討を行ったところ、次のような意見が挙がり、測定方法を確定の参考とした。

- ・ 理論的側面、技術的側面、総合的側面として学士力 1, 2, 3 が対応するよう趣旨を揃える。
- ・ 到達度で述べたことと冗長にならないように測定方法を簡潔に書くことにする。たとえば、筆記試験、レポート、課題制作、講評会などの表現とする。
- ・ 学んだ理論や作成した課題などについて、プレゼンテーション、ディスカッション能力も求められる。
- ・ 作品自体に語らせる側面もあるが、概要説明、制作背景など作者による説明能力も求められる。
- ・ テーマを与えられた課題と自由テーマの自主制作の評価の視点は異なる。課題として自主制作を求めることもあれば、課題とは独立して学生独自の自主制作や学外発表などを行うこともある。そのような自主的な取り組み実績を評価にいれることも可能である。
- ・ 講評会は複数の視点で見ることを明記したほうがよいのではないか。芸術系の特徴ということでもない。
- ・ 測定方法としては、筆記試験、レポート、課題作成、プレゼン、ディスカッション、講評会、展示、インターンシップなどが挙げられる。
- ・ 「学士力 3.」の到達目標に、自己表現の達成に関する記述を含める。ファインアート系は自己表現が強調されるがデザイン系はクライアントの要求に答えるが重視される。

以上の意見をふまえ、測定方法を次のように確定した。

1. 社会、歴史、科学などの観点から美術・デザインを理解できる
筆記試験、レポート、プレゼンテーション、ディスカッション等
2. 美的感覚、感受性に富み、独創的な表現により他者に感動を与えることができる
作品（課題提出）、作品プレゼンテーション、ディスカッション、講評会等
3. 美術・デザイン系分野における専門の理論と技術を統合し、社会の中で活用できる
講評会、外部評価、企画・提案書、報告書、論文

2. 今後の進め方

今回作成した学士力の委員会案を、サイバーFD 研究員の教員にメールで意見伺いを行い、結果を再検討することとなった。次回委員会は 10 月 23 日（金）、17 時～19 時に私学会館で開催することとなった（注：後に 18 時開始に変更）。

なお、美術理論の専攻を行っている委員が手薄なため、了徳時大学の高田寿八郎先生に委員として参画いただくことを検討することとなった。